
狐の面は月見て笑う

柚葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狐の面は月見て笑う

【Nコード】

N3360Z

【作者名】

柚葉

【あらすじ】

義賊：金持ちから金品などを盗み、貧民に与える賊。

義賊グループ「月夜」に所属する氷美は自分と紅い色が嫌いだった。理由は、戦うとやりすぎてしまうから。やりすぎたときの色が、紅だから…

*連載始めました。冷やし中華っぽい言い方ですね…

プロローグ

氷美^{ひみ}は狐の面の下で笑った。

月光が降り注ぐ中、紅く染まった刀を振って。

紅葉色の地に、花のような紋が入っている着物。刀のように紅く染まったのが目立たないように。

でも氷美は、この着物が好きではなかった。
なぜか。

やりすぎてしまったことを自覚させる色。

氷美の嫌いな、赤。

知らない人は「殺人鬼」と。

知っている人は「義賊」と。

氷美たちは、そう言われる。

氷美は、やりすぎてしまうから。手加減ができないから。

氷美は、紅く染まってしまふのだ。

そして、氷美は。

紅く染まった自分の顔を見たくないからこそ、狐の面をかぶる。

恐れられることを恐れているから、やりすぎてしまふ。

どうすればいいのかわからないから、操り人形のように、刀を振る
うのだ。

？・制御？

氷美は義賊。

（義賊：金持ちから金品を盗んで貧民に与える賊。）

だが、氷美は単独で義賊の活動をしているわけではない。

5人のグループ、「月夜^{げつや}」。

「あーあ、派手にやったな、氷美。」

氷美の背よりも50？ほど高い塀を軽々と越えて来たジャージ姿の少年が苦笑した。

「…零^{れい}。」

零と呼ばれた少年も、「月夜」の一人。

氷美よりも一歳だけ年上で、それだけなのに威張るといっものがものすごくいらつくやつだ。

「氷美もさ、やりすぎないようにできないわけ？」

「できたら、とっくの昔にやってるわよ…。」

喋るのは久しぶりな気がした。日本刀を使っているときは、時間が長く感じられるのだ。

感じられるだけじゃないのかもしれないけれど、もう慣れた。

「どうでもいいけど、零。」

「あい？」

「私がやりすぎるのを、黙ってみていたというの？」

氷美は、自分がやりすぎることに、誰かにとめられないと相手の息の根が止まるまで戦うことを知っている。

もちろん零も、知っているはずなのに。

「あ、いやー…それは、さ…。」

「黙ってみてたんでしょ？」

やりすぎてしまう自分が、大嫌いだっただ。

だからやりすぎそうなきはとめてくれと、月夜の全員に言った。

「……………悪い。」

ややあつて、零が頭を下げた。彼曰く、氷美のやりすぎたときの強さがとめるほどのものなのか品定めしたらしい。

「……………」

「…氷美？」

「ふっざけんじゃないわよ！」

「ちょ、氷美！仕事！騒ぐとばれる！」

「あんたが悪いのよ、零。」

「だから、悪かったって！」

「悪かったですむ話じゃないのよバカ！」

「じゃあどうしろってんだよ！」

「そんなの私を知るわけないでしょ！」

「私、帰る。零一人でやって。」

「え、ちょ、氷美！？」

零が後ろで呼び止める声がする。

知ったことか。あいつが悪いんだ。そう腹立ち紛れに思う。

氷美は日本刀を持ち、いつの間にか落としていた狐の面を拾う。

「少し、汚れた……………」

自分で言つて、吐き気がした。

その紅い汚れは、氷美がやりすぎてしまった証拠となる。

氷美は、どこで道を間違えたのか。

あの、孤児だった頃から間違えてたというのならば。

氷美は一つため息をつき、知ったことか、と心の中でもう一度呟いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3360z/>

狐の面は月見て笑う

2011年12月11日16時50分発行